

夕刊

考案新

五日十月十五日廿五日廿五日... 定價... 廣告... 發行所...

世相偶感

七日二十八日の時事新報に武藤氏の見習記者募集廣告に學歷を小學校全科卒業を以て資格の程度を示せるは近時物珍しく感ずる處なり...

補闕選舉會

小名濱町に於て町會議員一性名を減却して一と言ふた感興を興へる...

村上淨代二氏當選す

小名濱町に於て町會議員一性名を減却して一と言ふた感興を興へる...

急施町會

八月八日小名濱町にては八月八日小名濱町にては...

社會の第一歩

小名濱町議 熊谷寅次郎氏 親分氣質の豊富に持つて...

常磐春秋

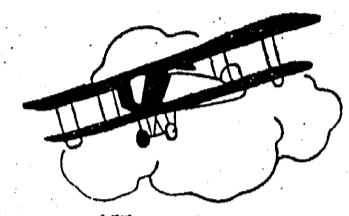
永山徳一氏 君は川前の徳左衛門、永山氏に長出し、土地、金融...

時事漫筆

然るに昨年末頭公友會に入れソナ型、記者は重て言一永山を攻めるに先立つて...

閑日漫言

近來腥い様な噂を大部耳にする人畜を殺傷する腫への目的とすれば己を得ずとするも經濟的の方面...



— 説小編長 —

(3) 者く行り去

海の出来事 如月葉作  
書き終つてはつとした信二が「うしく」と大きく欠伸をしながらか自暴に煙を吹いてゐると後の障子がするくくと開いて道子の圓い聲が彼を起させた。「え今ですか」「いゝえ」御飯すんでからよ、彼は道子の軽やかな足の音の音を踏んで朝餐の卓娘らしいのと男と子供の三人に就いた。信二さんも大分肥られたなまあ結構ぢや折角きてまた何にもならぬやうぢや困りますからな「え、」有難う御陰で主人の清兵衛は太い腹に團扇の風を入れながら朝刊を讀んでゐる彼は健康を害したといふ名目で叔父中村恒雄の知人のこの小名濱の海産物製造をする土地名で云へば、えさばやの力屋へ保養に来てゐるのであるが實際はそれもあるが学校の夏季休暇を利用しての運動者の手入で三ヶ月休學を令ぜられ恒雄はこの家へ連れてこられたのである。一時間の後彼は道子と弟の文雄をのせて力屋のモーターボートを濱の沖合に走らせてゐた、舟は氣持よく波を切る、まあ文雄さんそんなに動さんぢやな

くてよ、いかつべい少し位文雄は演言葉九出して應ずるボートは大きく燈臺より圓を圍いて紺青の空と海との一線に白く割して走る。みる／＼景は轉じて切立つ巖石の山ばかり「あつ健二さんあれ何んでせう轉覆したんぢやないでうか」あれ／＼道子の指さす方を見ると正しく一雙が何の爲か白い腹を見せて海中には赤や白の着物らしいのが藻掻いてゐる、彼は咄嗟にハンドルを廻すと全速力で近づいたが二三町あること故観察の余裕ある轉覆してゐるのは貸舟、落ちたのは若い人らしいが到達した時は子供の姿が見えない健二は裸で飛込んだ。

暑中御見舞  
申上候

久保田醫院 久保田眞 小名濱町	杉山今朝吉 内郷村	大平千秋 植田町
小磯元藏 小名濱町	高木保 小名濱町	鈴木佐忠 植田町
片寄朝男 湯本町	堀越新平 小名濱町	上遠野新十郎 泉村
石川徳壽 湯本町	宮津醫院 小名濱町	中野目廣治 泉村
常磐湯本温泉組合	西山直三郎 小名濱町	松井清水 泉村
比佐昌平 湯本町	石井定衛 小名濱町	兒玉萬平 川部村
駒木根忠三 王川村	安島重三郎 山田村	遠藤仙右工門 豊間村
丹野寅吉 玉川村	坂本龜太郎 植田町	鈴木猪之助 豊間村
三郡モーター商会 磯貝信夫 平町村木町	前田醫院 植田町	熊谷寅次郎 小名濱町